



NO. 7-1
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成22年度第4回

淀川総合水系環境整備事業 (南山城村地区かわまちづくり整備)

【再評価】

平成22年12月
近畿地方整備局

目次

1. 事業の概要
2. 事業の必要性等に関する視点
 - 1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化
 - 2) 事業の投資効果
 - 3) 関係自治体の意見等
3. 事業の進捗の見込みの視点
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性等
5. 対応方針(原案)

1. 事業の概要

1/2

■流域と対象地の概要

木津川(木津川上流河川事務所管内)

木津川上流部には赤目四十八滝等景観に優れた景勝地が点在し、上野盆地から笠置大橋にかけては散策やキャンプ等の場として利用されており、カーヌーやボート遊びが行われている。事業箇所は南山城村の中核施設が集中し、堤内地は盛んに利用されており、河川との一体整備が求められている。

項目	諸元
流域面積	1,308km ²
幹川流路延長	96km
流域内人口	25万人
流域内市町村	5市5町村



流域の状況

赤目四十八滝



木津川(笠置)でのキャンプ利用



事業箇所の状況



河川敷とやまなみホール



整備対象地と堤内地の状況



1. 事業の概要

2/2

■事業の目的： 南山城村総合計画では、「未来を想像する潤いに満ちた元気むらをめざして」をテーマに「水と緑の豊かな環境づくり」として自然環境の保全・育成が位置づけられている。

本事業は河川管理用通路等を整備することにより、村の中核施設が集中して隣接している地域に環境学習等の安全な河川敷利用、水防訓練等多目的な活用が可能となるような事業を実施するものである。

■課題： 多様な自然環境を有する地域であるが、河川への関心が薄れ、河川を利用する機会が減少していた。しかし、当該地域の近年の河川環境に対するニーズの高まりにより、豊かな自然環境を保全しつつ、貴重なオープンスペースを有効活用し、川が地域のにぎわいの中心となるような魅力ある河川空間の整備が求められている。

安全な河川敷へのアプローチ



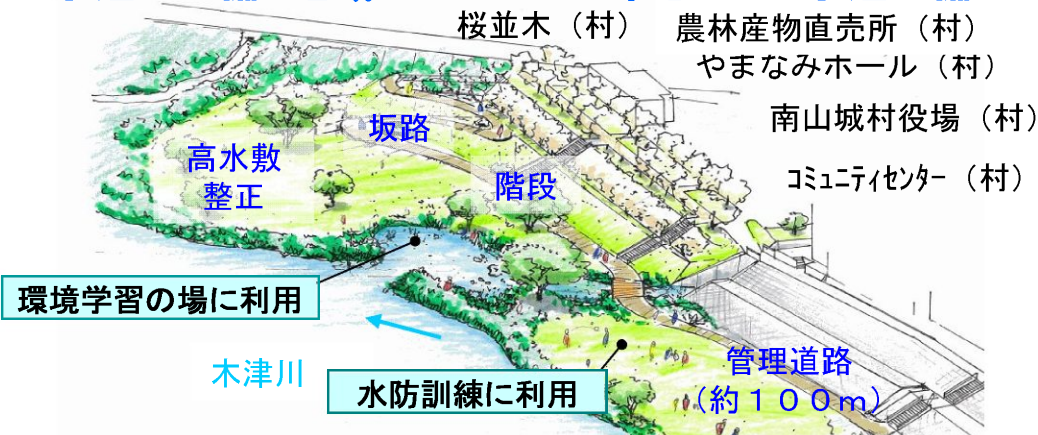
階段、坂路を新設により、安全に河川敷に近づくことができる。

安全な河原(高水敷)



河川敷には不陸(凸凹)や陥没があり、誰にとっても安心して利用できる場であるとは言い難い状況を解消して、安全・安心に利用できるようにする。

○水辺の整備 地域のにぎわいの中心となる水辺整備



管理用通路



管理用通路を設けることで、適正な管理が行える。また日頃は散策などに利用できる。

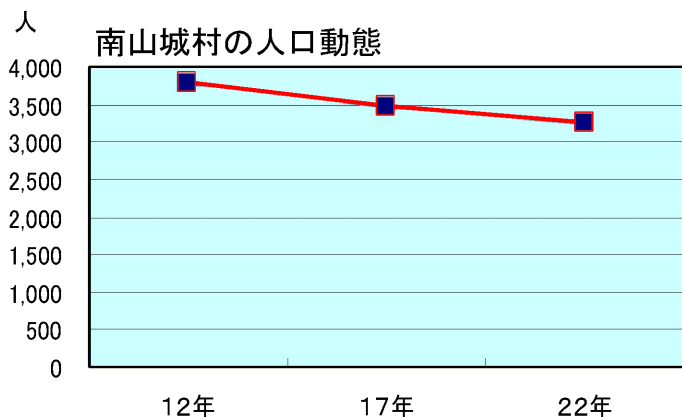
■期待される効果： (1)水辺と一体となったまちづくり(2)円滑な河川管理(3)水辺空間の創出(4)防災意識の向上

2. 事業の必要性等に関する視点

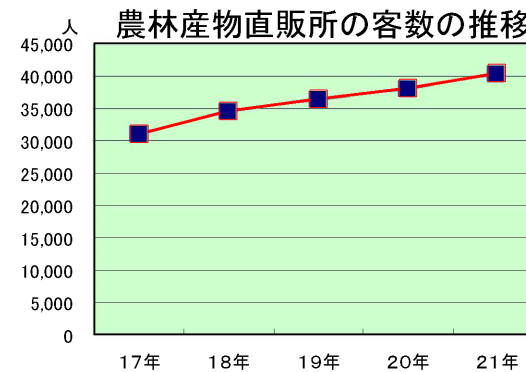
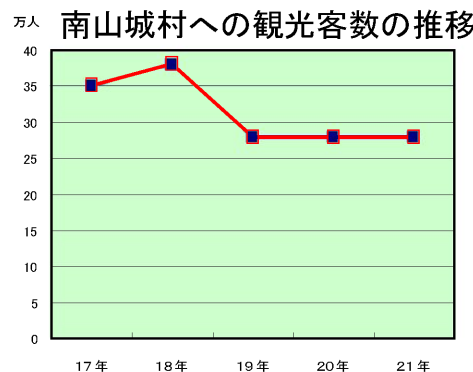
1/4

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 地域の過疎・高齢化を反映して人口は減少傾向
- 南山城村への観光客は、年間28万人程度
- 事業箇所近傍の農林産物直売所観光利用者は過去5年間増加傾向
→平成21年の入込客 年間4万人
→事業箇所には年間に人口の10倍以上の人が訪れる



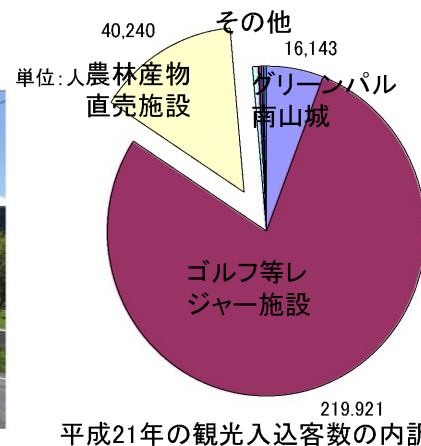
12年 17年 22年
＜資料：京都府WEBサイト＞



整備対象地に隣接する村の中核施設
「やまなみホール」
撮影：H22.8.6



農林産物直販所と整備対象地
撮影：H22.8.6



施設等	入込客数
グリーンパル南山城	16,143
ゴルフ等レジャー施設	219,921
農林産物直売施設	40,240
高山ダム・木津川周辺	1,400
恋志谷神社・春光寺等	1,400
田山花踊り	500
野殿童仙房高原	750

＜資料：南山城村資料＞

2. 事業の必要性等に関する視点

2/4

2) 事業の投資効果(1/2)

・斜路や階段を含めた管理用通路を整備することにより、円滑な河川管理が可能となる。このことは、水辺と一体となったまちづくりにつながり、親水性の向上や環境学習、水防訓練等の活用が期待できる。

■水辺と一体となったまちづくり

村の中核となる施設が集中する場所の特性を活かして、これらと水辺が一体となったまちづくり



撮影:H18.7.8

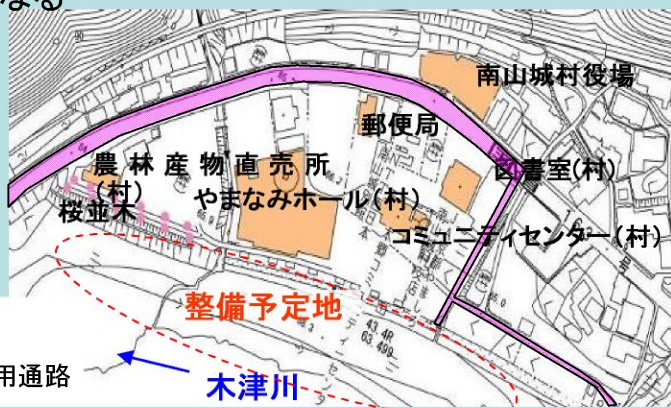


撮影:H18.7.8

やまなみホールと河川敷で連携したライトアップ

■円滑な河川管理

管理用通路等を整備することにより寄り円滑な河川管理が可能となる



現状の管理用通路

木津川

整備対象地と堤内地の状況

■水辺空間の創出

村にとって、貴重なオープンスペースであり、人々のやすらぎの場として、親水性を活かした魅力的な水辺空間を創出



撮影:H22.9.20



環境学習の場

■防災意識の向上

適切な管理による安全性向上と水防訓練の場として利用することなどによる、地域住民の防災意識の向上



撮影:H21.7.10

水防訓練

2) 事業の投資効果(2/2)

- ・ 総便益 (B) 沿川住民を対象としたCVMアンケートにより支払い意志額(WTP)を把握。WTPから年便益を求め、評価期間を考慮し、残存価値を付加して算定する。
- ・ 総費用 (C) 事業に係わる建設費と評価期間中の維持管理費を計上する。

■ 淀川総合水系環境整備事業（南山城村地区かわまちづくり整備） 費用便益比（B/C）の算定結果

事業全体の費用対効果分析結果（残事業を含めた場合）

基準年：平成22年度

総便益 (B) : 1.45億円（基準年での現在価値）

総費用 (C) : 0.54億円（基準年での現在価値）

算定結果 B/C = 1.45億円 / 0.54億円

= 2.7

3) 関係自治体の意見等

■ 京都府知事

本事業は河川管理用通路を整備することにより、木津川河川敷の安全な利活用を図るものであり、南山城村の総合計画や河川整備の要望とも整合しており、対応方針(原案)のとおり引き続き事業を推進し、早期完成に努められたい。

3. 事業の進捗の見込みの視点

- ・平成23年（単年度）で施工完了予定。
- ・地元自治体などからもかわまちづくりの申請等、整備要望を受けていることから今後の事業進捗の見通しについて大きな支障はない。
- ・既に清掃、除草等を地域住民が実施しており維持管理上の支障はない。
- ・引き続き事業を推進し、早期の供用を目指します。

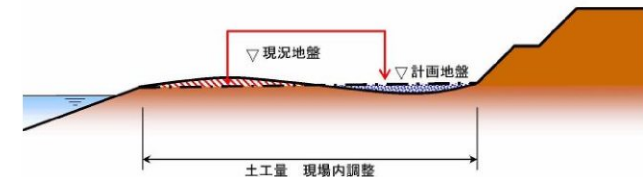
◇南山城村地区かわまちづくり整備事業の経緯と進捗

区分	H20	H21	H22	H23	H24
南山城村地区 かわまちづくり 整備事業		測量	設計	施工	

4. コスト縮減や代替案立案等の可能性等

■コスト縮減

- ・土工は場内調整し、掘削土の場外搬出費、処分費は発生しない。
- ・維持管理作業（清掃、除草等）を地域住民が主体となって実施。



■代替案立案等の可能性等

- ・本事業は地方公共団体や地元住民との連携で立案された河川の水辺の整備・利用を行うものであり現計画が最適と判断する。

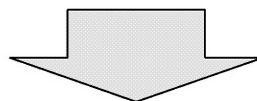
5. 対応方針(原案)

(1)事業の必要性等に関する視点

- 整備対象地は南山城村の中心部にあたり、堤内地の施設を中心に種々の利用がされている。総合計画にも位置づけられ、地域からの整備要望は高く、河川利用上の安全・安心やまちとかわが一体となった利用が期待できる。
- 整備する施設は河川管理施設としても利用し確実な河川管理により治水上の安全・安心の確保が期待出来る。
- 費用便益比(B/C)は2.7である。

(2)事業の進捗の見込みの視点

- 本事業は平成21年度に着手し、平成23年度には整備が完了する予定である。
- 引き続き事業を推進し、早期の供用を目指す。



南山城村地区かわまちづくり整備事業は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当であると判断できる。

コスト縮減、代替案立案の可能性の視点から、事業の見直しを図る必要はなく、引き続き事業を推進すべきであると判断できる。

事業継続



No.7-2
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成22年度第4回

淀川総合水系環境整備事業
(南山城村地区かわまちづくり整備)

【再評価】

平成22年12月
近畿地方整備局

【 前回評価時との対比表 】

【参考資料】

事業名 : 淀川総合水系環境整備事業(南山城村地区かわまちづくり整備)

平成22年度 第4回事業評価監視委員会

事業化年度 :平成21年(事業全体 昭和63年)

	前回評価	今回評価	(主な変更理由)
	平成21年2月	平成22年12月	
再評価理由	再評価実施後一定期間が経過	前回評価以降に着手する個別箇所	
事業諸元	<p>【水環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天野川浄化・寝屋川浄化 <p>【自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚ののぼりやすい川づくり・淀川ワンド再生・淀川鶴殿ヨシ原保全・野洲川自然再生・猪名川自然再生 <p>【水辺の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東高瀬川河道整備・木津川水辺プラザ・伏見かわまちづくり・瀬田川散策路整備・三本松地区水辺の楽校・笠置地区水辺の楽校 	<p>【水辺の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南山城村地区かわまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな個別箇所(南山城村地区かわまちづくり)を追加
全体事業費	(事業全体525億円)	0.5億円(事業全体:525.5億円)	・新たな個別箇所の追加による増
進捗率(事業費)	(事業全体 約20%)	約10%	・今回評価は新たな個別箇所のみ の評価
費用対効果B/C (残事業)	(事業全体:6.8)	個別箇所のみ:2.7	・今回評価は新たな個別箇所のみ の評価
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・南山城村において、南山城村第3次総合計画がH14に策定されるとともに、平成21年度に「南山城村地区かわまちづくり計画」が策定されている。 ・南山城村地区かわまちづくり整備は、平成23年で施工完了予定。 		

(様式－1)

【概要】

水系・河川名	淀川水系（木津川）
事業名	淀川総合水系環境整備事業（南山城村地区かわまちづくり整備）
事業主体	近畿地方整備局
事業期間	2009年度～2011年度（平成21年度～平成23年度）
基準(評価)年度	2010年度（平成22年度）

【費用】

		建設費	維持管理費	合計
単純合計（実質価格）	事業全体	50百万円	13百万円	63百万円
基準年における現在価格合計（C）	事業全体	49百万円	5百万円	54百万円

【便益】

	便益
供用年度	2011年度（平成24年度）
供用年度の単年度便益（実質価格）	7百万円
残存価値(実質価格)	0.5百万円
基準年における現在価値合計（B）	145百万円

【費用便益分析結果】

費用便益比（CBR）	2.7
------------	-----

【費用便益算定シート】

・南山城村地区かわまちづくり整備

基準(評価)年度	2010(H22)
供用年度	2012(H24)
社会的割引率	4%

便益の値(CVMによる推計値)	7百万円/年
-----------------	--------


年度	デフレ率	割引率	便益:B					費用:C										
			便益①		残存価値②		計①+②	建設費③			維持管理費④		計③+④					
			便益	実質価格	現在価値	実質価格		現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用合計	実施価格	現在価値				
-1	2009 H21	1.000	1.040	0	0	0	0	5	5	5	5	5	5	5				
0	2010 H22	1.000	1.000	0	0	0	0	12	12	12			12	12				
1	2011 H23	1.000	0.962	0	0	0	0	33	33	31			33	33				
2	2012 H24	1.000	0.925	7	7	6	6				0.3	0.3	0.2	0.3				
3	2013 H25	1.000	0.889	7	7	6	6				0.3	0.3	0.2	0.3				
4	2014 H26	1.000	0.855	7	7	6	6				0.3	0.3	0.2	0.3				
5	2015 H27	1.000	0.822	7	7	6	6				0.3	0.3	0.2	0.3				
6	2016 H28	1.000	0.790	7	7	6	6				0.3	0.3	0.2	0.3				
7	2017 H29	1.000	0.760	7	7	5	5				0.3	0.3	0.2	0.3				
8	2018 H30	1.000	0.731	7	7	5	5				0.3	0.3	0.2	0.3				
9	2019 H31	1.000	0.703	7	7	5	5				0.3	0.3	0.2	0.3				
10	2020 H32	1.000	0.676	7	7	5	5				0.3	0.3	0.2	0.3				
11	2021 H33	1.000	0.650	7	7	5	5				0.3	0.3	0.2	0.3				
12	2022 H34	1.000	0.625	7	7	4	4				0.3	0.3	0.2	0.3				
13	2023 H35	1.000	0.601	7	7	4	4				0.3	0.3	0.2	0.3				
14	2024 H36	1.000	0.577	7	7	4	4				0.3	0.3	0.1	0.3				
15	2025 H37	1.000	0.555	7	7	4	4				0.3	0.3	0.1	0.3				
16	2026 H38	1.000	0.534	7	7	4	4				0.3	0.3	0.1	0.3				
17	2027 H39	1.000	0.513	7	7	4	4				0.3	0.3	0.1	0.3				
18	2028 H40	1.000	0.494	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
19	2029 H41	1.000	0.475	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
20	2030 H42	1.000	0.456	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
21	2031 H43	1.000	0.439	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
22	2032 H44	1.000	0.422	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
23	2033 H45	1.000	0.406	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
24	2034 H46	1.000	0.390	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
25	2035 H47	1.000	0.375	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
26	2036 H48	1.000	0.361	7	7	3	3				0.3	0.3	0.1	0.3				
27	2037 H49	1.000	0.347	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
28	2038 H50	1.000	0.333	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
29	2039 H51	1.000	0.321	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
30	2040 H52	1.000	0.308	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
31	2041 H53	1.000	0.296	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
32	2042 H54	1.000	0.285	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
33	2043 H55	1.000	0.274	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
34	2044 H56	1.000	0.264	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
35	2045 H57	1.000	0.253	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
36	2046 H58	1.000	0.244	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
37	2047 H59	1.000	0.234	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
38	2048 H60	1.000	0.225	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
39	2049 H61	1.000	0.217	7	7	2	2				0.3	0.3	0.1	0.3				
40	2050 H62	1.000	0.208	7	7	1	1				0.3	0.3	0.1	0.3				
41	2051 H63	1.000	0.200	7	7	1	1				0.3	0.3	0.1	0.3				
42	2052 H64	1.000	0.193	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
43	2053 H65	1.000	0.185	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
44	2054 H66	1.000	0.178	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
45	2055 H67	1.000	0.171	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
46	2056 H68	1.000	0.165	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
47	2057 H69	1.000	0.158	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
48	2058 H70	1.000	0.152	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
49	2059 H71	1.000	0.146	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
50	2060 H72	1.000	0.141	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
51	2061 H73	1.000	0.135	7	7	1	1				0.3	0.3	0.0	0.3				
合計				350	350	145	33	0.5	145	50	50	49	13	13	5	63	63	54

総便益	B	145
総費用	C	54
費用便益費	B/C	2.7

【算出説明書】

事業概要	
事業目的	<p>南山城村総合計画では、「未来を想像する潤いに満ちた元気むらをめざして」をテーマに「水と緑の豊かな環境づくり」として自然環境の保全・育成が位置づけられている。</p> <p>本事業は河川管理用通路等を整備することにより、村の中核施設が集中して隣接している地域に環境学習等の安全な河川敷利用、水防訓練等多目的な活用が可能となるような事業を実施するものである。</p>
事業内容 (事業箇所図)	<p>管理用通路 100m 高水敷修正 1式 坂路設置 1箇所 階段設置 3箇所</p>

【算出説明書】

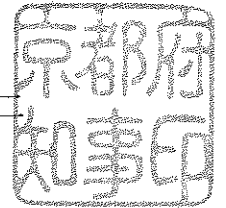
費用便益比の算定根拠		
便益	評価手法	CVM
	便益計測期間	平成 24 年度～平成 73 年度（事業完了から 50 年）
	年便益	○年平均便益額 ・事業全体：7 百万円（=276 円/月・世帯×12 ヶ月×2,115 世帯） ※世帯数は平成 17 年国勢調査に基づく
	評価範囲 (評価範囲図)	○ 便益範囲 南山城村地区と認知度等の関係を分析し、指標が大きく変化する境界部分から便益範囲（4km 圏）を設定。 ○世帯数：2,115 世帯 ○配布回収方法：郵送 ○アンケート票数：1,500 世帯配布、回収数 439 部（回収率 29.3%）、支払い意思額(WTP)の有効回答数 346 部（有効回答率 78.8%） 
総便益	○年便益 ・事業全体：7 百万円/年 ○残存価値 ・事業全体：0.5 百万円 ○総便益 ・事業全体： 残存価値+ \sum 単年度便益額 / $(1+0.04)^n = 145$ 百万円	
費用	建設費	・事業全体：50 百万円（平成 21 年度～平成 23 年度） ※デフレーターを考慮した実質価格
	維持管理費	・事業全体：13 百万円 （事業費を元に設定。維持管理費は当該整備完了の翌年の平成 24 年～平成 73 年度まで計上） ※デフレーターを考慮した実質価格
	総費用	・事業全体：建設費+ \sum 年間維持管理費 / $(1+0.04)^n = 54$ 百万円
費用便益比 (B/C)		事業全体：2.7



2 河 第 3 8 6 号
平成 2 2 年 1 1 月 8 日

近畿地方整備局長 様

京都府知事 山田 啓二



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）
の作成に係る意見照会【河川事業】について（回答）

平成 2 2 年 1 0 月 2 2 日付け国近整企画第 4 5 号で意見照会のことについて、別紙
のとおり回答します。

京都府建設交通部

河川課計画担当 075-414-5287

事業継続に関する京都府意見

【河川事業】

事業名	淀川総合水系環境整備事業 (南山城村地区かわまちづくり整備)
意見	本事業は河川管理用通路を整備することにより、木津川河川敷の安全な利活用を図るものであり、南山城村の総合計画や河川整備の要望とも整合しており、対応方針(原案)のとおり引き続き事業を推進し、早期完成に努められたい。